

アルゼンチンの音楽家「シルビオ・モレノ」を
ご紹介させていただきます。

寺本 安久

アルゼンチンを愛し、アルゼンチン文化を伝え続けてきた「シルビオ・モレノ」(80歳)は、2023年6月9日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2020年、在日アルゼンチン大使館より、アルゼンチン出身者として25年以上日本で文化・芸術活動をされてきた功績が認められて「芸術功労賞」を受賞、表彰を受けられています。

この度、奥様の「祐子・リンダ・モレノ」様よりご投稿いただきましたので、ここにご紹介させていただきます。

音楽家「シルビオ・モレノ」の人生 祐子・リンダ・モレノ

アルゼンチン・サンタフェ生まれの音楽家シルビオ・モレノは、1943年生まれ。12歳でラジオ番組でクラシックギタリストとしてデビュー。17歳で国立リトラル音楽大学を最年少で卒業。1970年代には、国民的歌手メルセデス・ソーサのギタリストとしてヨーロッパ公演に参加、アルバムアレンジを手がけました。輝かしいキャリアを積み重ねてきたが、軍事政権の秘密警察に拘束され拷問を受け、大切な手を損傷。奇跡的に生きながらえたが、医者には、ギタリストとして再起不能を宣言されました。

シルビオの危険な状況を知り、沖縄の友人たちに協力いただき、1979年から沖縄に拠点を移し、リハビリを続け南米音楽家として再出発しました。

1983年、「南米の人々の屋根になるような場所」「本場の南米音楽が聴ける場所」というコンセプトで沖縄・那覇市の「安里」に南米料理と音楽の店「ペーニャあまいかい」を開店しこの度40周年を迎えました。シルビオの思いは、まったく違う文化の地、沖縄で「この遠い土地で自身の愛するアルゼンチンを思い、これを再現する」。まさにこの思いが、「ペーニャあまいかい」に集約されています。1983年は、丁度アルゼンチンが軍政から民政に移行した年で40年間一緒に歩み続けたことになりました。

彼は、これまでの事件・事故や28年前に発病したパーキンソン病により何度もギターが弾けなくなる状況になりました。しかし大変な苦悩の末に、力強く前を向いて挑んできました。苦しい時には音楽や芸術が彼を助け、一心不乱に表現を続けてきました。

シルビオは、残念ながら、6月9日に旅立ちました。現在もはるか遠くから沖縄とアルゼンチンを愛し、これからもアルゼンチン文化を伝え続けることと思います。この度、ドキュメンタリー映画「Todo Cambia」がスペイン・バルセロナで上映され、今後、沖縄をはじめ、日本各地で上映が予定されています。



1975年 ボリビア ラ・パスでの
コンサート



沖縄でのコンサート



「ペーニャあまいかい」店内



晩年のコンサート



～参考情報・資料～

【映画関連情報】

ドキュメンタリー映画「すべては変わる」と人形アニメーション短編映画「&ever blue」、メイキング映像の計3本を1本の作品として2025年の全国劇場公開を目指します。公開後の収益はすべて、パーキンソン病に立ち向かう当事者や介護者の支援施設プラトールハウスの設立費と運営費になります。

特設サイト：<https://10bin.jp/support/>

映画「すべては変わる」の概要

主人公のシルビオ・モレノ氏はアルゼンチンから亡命したフォルクローレギタリスト、奥様のリンダ氏(本名は祐子さん)はシルビオと共に音を奏でる演奏者兼歌手です。沖縄でパーキンソン病と診断を受けても、音楽の力が繋ぐ、家族の力でパーキンソン病に立ち向かう姿を描いたドキュメンタリー・ムービーになっています。

ドキュメンタリー予告編：<https://youtu.be/FQ7iPVL4Xh4>

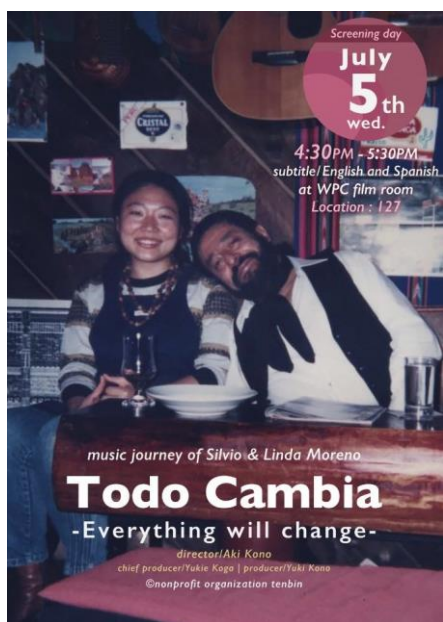
【河野亜季監督からメッセージ】

アニメーション、人形を使った啓蒙活動を通して、当事者の方々と出会い話していくうちに、彼らが元気であるためには介護者が元気でいなくてはならないことを知りました。しかし、介護者の精神的な問題が置き去りにされている現実を知り、介護者の心のあり方を考えるようになりました。そんな中、いつも笑顔で歌うように話すモレノ夫妻の話を聞く中で、歌を通して会話し、見えないはずの「愛」が2人の間を行き来しているように見えたのです。夫婦で病と共に生じる様々な困難に立ち向かう中で、当事者と介護者の心は徐々にすれ違いが起これ、「離別」という選択をされる方も少なくないと聞きます。もう一度、夫婦やパートナー、この映画が、家族のあり方を考えるきっかけになり、今はパーキンソン病に関わりのない方が、病のことを知り、当事者と介護者の方々を支える味方が一人でも増えるようにと願っています。

7月4日から7日までスペイン バルセロナで開催される、世界パーキンソン病学会で本編上映後、日本全国のパーキンソン病当事者団体と協力し、日本各地で上映を予定しています。

「私の街でも映画を上映したい！」と思われた方、現在活動にご支援いただけるサポーター様を大募集しています。ご興味のあるかたは是非クリックして見ていってください！

2人のドキュメンタリー映画『Todo Cambia-すべては変わる-』は完成し、今後人形アニメーションでは、シルビオさんを介護する中で、変わり続けるリンダさんの心を描く「& ever BLUE」は、介護者も一人じゃないよ！とエールを贈ることの出来る物語です。



映画ポスター



(てらもと やすひさ：当協会常務理事)